



CONTENTS

- 1-トピックス 新規研究会「社会基盤型運輸システム品証研究会」設置のお知らせ
- 2-私の提言 「生産性向上」と「人材育成」をもっと前面に
- 2-デミング賞受賞一覧 / 2021年7月・8月の入会者紹介
- 3-榎 広計氏 デミング賞本賞受賞 / 高橋 勝彦氏 日経品質管理文庫賞受賞 / 鈴木 佳和氏 日経品質管理文庫賞受賞
- 4-行事案内 / 各賞表彰 / 新規研究会メンバー募集 / JSQC規格頒布

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

新規研究会「社会基盤型運輸システム品証研究会」設置のお知らせ

社会基盤型運輸システム品証研究会 主査 岡部 康平

交通・物流系における自動・自律化の先端技術が社会インフラの基盤として社会に定着するために求められる品質保証の在り方について、実務的並びに学術的な観点から包括的に議論する研究会を新たに設置します。

交通・物流系の社会基盤的な新規事業が成功するためには、複数企業の様々な製品が混在する自律・分散系の運用制度と、それら製品群を統括管理する統合・管制系の運用制度との両立が重要な課題となります。個別製品としての通常の品質管理だけでなく、公共サービスとしての品質管理も欠かせません。しかし、その様な包括的な運用体系、さらに、その管理体制については、議論や研究がまだ希少であり、それらの確立に向けて、より多くの科学的知見が求められています。

新規研究会では、交通・物流系の社会基盤的な新規事業の創出・参入を促進することを目標に掲げ、品質保証の観点からドローン等を用いた次世代型運輸システムの運用・管理体系を検討することにより、ドローン等の産業規格化や認証制度などの環境整備に貢献したいと考えています。検討テーマは社会実装が急速に進む①自動車の自動安全運転技術、②ドローンの自動航行技術、③サービスロボットの自律搬送技術の3分野に注目します。

自動車分野における自動・自律化技術の実証実験は今や世界中で実施されています。同様に、ドローンの社会導入も国際航空法の改正や国際製品規格の新規策定などが世界規模で進んでいます。また、サービスロボットにおいても、ラストワンマイル等の移動サービス (MaaS: Mobility as a Service) での活用が既に始まっています。このような世界的競争の中で、日本でも国家的プロジェクトで自動・自律化技術の産業応用が推進されていますが、ビジネスモデル等の策定支援や事前評価をも支援する枠組みのあるプロジェクトは多くありません。新技術の社会実装を推進する学会活動などの社会的な支援の拡充が望まれます。新規研究会では上記3分野における自動・自律化技術の魅力的品質の創生とその管理体制を具体的に議論し、検討結果を品質管理学会規格 (新製品・新サービス開発管理の指針) への活用につなげることを目指します。

上記の3分野は高速通信や人工知能などの多様な新技術が結集されます。新規研究会では、各分野の専門家に協力を仰いで新技術とその産業化の動向について情報共有するとともに、公共サービスや社会福祉などの今後の社会ニーズについても調査し、最新技術が社会基盤として要求される当たり前品質や開発目標とすべき魅力的品質を

討します。そして、新規研究会での知見や成果が上記分野における新規事業のビジネスモデル等に反映されるように、下記の課題に重点的に取り組みます。

- (1) PPP/PFI制度に代表される官民連携事業の成功事例の調査
- (2) 官民連携事業のビジネスモデルに関するシステム論的な分析
- (3) 自動・自律化技術が社会インフラとして定着するための技術的・制度的課題の検討
- (4) 持続可能性 (Corporate Sustainability) の観点からの品質管理技術の検討
- (5) 品質管理学会規格 (新製品・新サービス開発管理の指針) の活用
- (6) 社会基盤型運輸システムにおける品質保証の体制・体系の提言

新規研究会は準備会の立ち上げ段階から信頼性・安全性計画研究会と連携して活動しております。活動の場をさらに広げるべく、新たな委員研究会メンバーを幅広く募集しております。品質保証、ロジスティックス、ソーシャル・マーケティング、さらには社会保障や環境保全などの最前線で活躍されている方々の参画をお待ちしております。詳細は募集案内 (4ページ) をご覧ください。

● 私の提言 ●

「生産性向上」と「人材育成」をもっと前面に

元リコー 熊井 秀俊



いま日本では、人口減少や少子高齢化による労働力不足・国際競争力の低下が叫ばれ、国別の生産性指標の順位は低迷して

おり、これに対して労働生産性の向上や学びなおしが注目されています。

一方、品質管理は、「顧客の満足」と「社会の満足」をめざして、アウトターの品質保証として「顧客価値の創造」「基本品質の確保」を掲げていますが、そこでもう一つの「働く人々の満足」をめざしたインナーの品質保証として「生産性向上」と「人材育成」を明示

して前面に出したいと思います。

「生産性向上」は「顧客価値の創造」「基本品質の確保」を効果的、効率的に行えるようにするものであり、それをできるようにするためには「人材育成」も実現も必要です。そしてこの2つが実現すれば、働く人々が豊かになり、ワクワク働けるようになり「働く人々の満足」につながっていきます。

「生産性向上」も「人材育成」も、品質管理の得意技であり大きな成果をあげてきていますが、活動の中に内包されていて外には目立ちにくかったのではないかと思います。いま品質管理をこれまで以上に世の中に広めていこうとしていますが、「生産性向上」「人材育成」をあえて加えて前面に出すことで、より多くの

方々に品質管理がより広く役に立つものであるという理解を助けることになり、品質管理の活動により弾みがつき、広く世の中への普及にも役に立つと思います。

ただし、注意すべき点もあります。「生産性向上」は単に人件費削減ではなく、付加価値を生み出す効率をあげることでありと留意し、単純に総量で残業規制だけをして結果的にサービス残業を生み出すようなことがあってはいけません。実績のあるわかりやすい実例があります。原価管理担当者が最初は自分の担当する見積書作成作業の効率化にとり組んでいましたが、そこから発展して、工場・営業と連携して、お客様の見たいものが書かれてあり受注率のアップにつながる見積書の作成を実現し、それにより関連部門全体の効率化にもつながりました。こうした取り組みから「生産性向上」を狙いましょう。

これらは「あたりまえ」のことで、あえてここを強調して前面に出すことで、さらなる品質管理の普及に役立てたいと思います。

デミング賞委員会（委員長 十倉 雅和）において、2021年度のデミング賞大賞、デミング賞各賞、日経品質管理文献賞の受賞者が決定し、授賞式は11月10日経団連会館にて執り行われました。

1. デミング賞大賞

株式会社オティックス（愛知県西尾市）

2. デミング賞本賞

椿 広計 氏 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 理事／
統計数理研究所 所長

3. デミング賞

トヨタ紡織株式会社 刈谷工場およびユニット生技センター（愛知県刈谷市）

4. 日経品質管理文献賞（文献名五十音順）

(1) 「JSQC選書33 海外進出と品質経営による成長戦略：

グローバル中堅企業100年の軌跡」

中尾 眞 著

(2) 「上手な機械学習と統計的品質管理の使い方入門

JUSE-StatWorksによるこれからのものづくりに必要な両利きのデータ分析」

渡邊 克彦 著

(3) 「JSQC選書32 生産管理-多様性と効率性に応える生産方式とその計画管理」

高橋 勝彦 著

(4) 「調達品の品質確保 ありたい姿と現実のギャップを埋めるために」

鯨谷 佳和 著

(5) 「TQM推進によるビジョン経営の実践

デミング賞・同大賞への挑戦を通じたレクサス工場の進化」

米岡 俊郎・中村 聡 著

2021年7月・8月の
入会者紹介

2021年7月16日の理事会および2021年8月5日の理事会審議において、下記の通り正会員17名の入会が承認されました。

.....
(正会員17名) ○岸本 徹也（日本大学）
○奥 展威（日本規格協会ソリューションズ）
○久保内 大介（トヨタ紡織）
○原 正之（アドテックス）
○星野 智憲（ジェイテクト）
○朝日 弘（日本規格協会）
○浅野 宣明（関西電力）
○戸村 栄一（ニッコー）
○播本 宏司（日本パーカラライジング）
○福島 悠介・三木田 大祐（川崎重工業）
○片出 秀人（三菱電機）
○川上 智史（ダイハツディーゼル）
○小笠原 真（TYK）
○海後 宗男（筑波大学）
○田村 保暁（NTTエレクトロニクス）
○平田 泰久（東北大学）
.....

名誉会員：20名

正会員：1742名

準会員：87名

職域会員：50名

賛助会員：151社223口

賛助職域会員：12名

公共会員：18口

椿 広計 氏・本学会元会長 今年度デミング賞本賞を受賞

椿広計氏が2021年度のデミング賞本賞を受賞されました。誠におめでとうございます。デミング賞本賞は、品質管理の普及や発展に貢献した個人に贈られる栄誉ある賞です。



椿氏は東京大学大学院を修了後、筑波大学教授等を経て、現在、データサイエンスのわが国の拠点である統計数理研究所長として活動されています。統計科学とTQMの考え方を原点に、(独)統計センター理事長を含む7府省17の部会長・座長等を務められてきました。日本品質管理学会においては第45・46年度の会長を務められ、日本品質管理協議会の設立に向けて尽力されました。現在は品質工学会長として、日本品質管理学会とも協働されています。

椿氏の統計科学に関する抜群の見識と博識は誰もが認めるところです。さらに、椿氏の組織力と活動のスコ

アの広さは卓越しています。25年も続けているテクノメトリックス研究会の設立を提唱され、日本品質管理学会がレベル表を認定している品質管理検定の創成にも努力されました。医療統計学分野や初等中等教育における統計科学の導入・推進にも本質的に関与されています。

今後もわが国の統計科学と品質管理の大黒柱となってご活躍いただくことを祈念しています。



高橋 勝彦 氏・本学会西日本支部長 日経品質管理文献賞を受賞

本学会第50年度西日本支部支部長の高橋勝彦氏(広島大学)の著書、JSQC選書32「生産管理 - 多様性と効率性に応える生産方式とその計画管理」が、本年度の日経品質管理文献賞を受賞されました。

生産管理においては、どのような種類の製品を生産するかという多様

性と、同じ製品をどの程度の量を生産するかにより影響を受ける効率性が問題となり、従来、相反する多様性と効率性のいずれかを重視する生産方式や両者の均衡を図る生産方式が考えられてきました。また、複雑化した製品の効率的生産を支えるために、複数の生産拠点を連携させる

計画管理、さらに多様性と効率性を共に高める生産方式も考えられてきました。本書では、そのような様々な生産方式とその計画管理を取り上げ、基本から最先端のものまで、体系的に述べています。

本学会員である高橋氏の受賞、心よりお祝い申し上げます。

鯨谷 佳和 氏・本学会元関西支部長 日経品質管理文献賞を受賞

本学会関西支部長を歴任された鯨谷佳和氏(元村田製作所)の著書、「調達品の品質確保ありたい姿と現実のギャップを埋めるために」(日科技連出版社)が、本年度の日経品質管理論文賞を受賞されました。

品質管理分野でも調達品の品質確

保に関する文献は少なく、鯨谷氏が村田製作所において、長年品質保証と調達の仕事を実践する中で、多くの顧客や仕入れ先から学んだことや悩み考えた視点を整理しています。

調達管理と調達品の品質管理、仕入れ先選定と契約、量産段階における調達品の品質管理、仕入れ先への

支援と指導、SCMにおける品質保証など、概念から具体的な活動まで調達業務の順序でわかりやすく解説し、調達品の品質管理活動を体系的に理解できるようになっています。

調達業務や品質管理における鯨谷氏の功績が認められての受賞であり、心よりお祝い申し上げます。

行事案内

●第172回シンポジウム（東日本）

テーマ：AI品質マネジメント最前線

日時：2021年12月10日(金)9:00~12:00

会場：Zoom会議室（オンライン）

プログラム：

講演1 Society5.0における安全ガバナンスの在り方
高橋 久実子 氏（情報処理推進機構）

講演2 AIの品質における難しさとアプローチ
石川 冬樹 氏（国立情報学研究所）

講演3 国際標準の議論に見るAIによる基本権侵害への対応
江川 尚志 氏（日本電気）

講演4 AIの「品質」に関する法的・倫理的論点（仮）
工藤 郁子 氏（世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター）

パネルディスカッション

AI品質マネジメントのあるべき姿

司会：平田 雄一 氏

パネラー：桑島 洋 氏（デンソー）

上記講演者

詳細・申込：<https://jsqc.org/172symposium/>

●第127回クオリティトーク（東日本）

テーマ：歩車共有空間を走行する自動運転の価値と安全の共創

ゲスト：伊藤 誠 氏（筑波大学）

日時：2021年12月21日(火)18:00~20:15

会場：Zoom会議室（オンライン）

詳細・申込：https://jsqc.org/127th_qtalk/

●第3回特別座談会（東日本）

TQM推進の勘所—先人の知恵を借りる—

日時：2022年1月28日(金)13:00~18:00

会場：Zoom会議室（オンライン）

登壇者：

北廣 和雄 氏

（北廣技術士事務所/元 積水化学工業）

永原 賢造 氏

（プロセスマネジメントテクノ/元 リコー）

新家 達弥 氏

（元 日立製作所）

高木 美作恵 氏

（クリエイティブ・マインド/元 シャープ）

コーディネータ：

光藤 義郎 氏

（日科技連/元 文化学園・元 JUKI）

詳細・申込：https://jsqc.org/3nd_zadankai/

事務局

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：E-mail：jimukyoku@jsqc.org

中部支部：E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：E-mail：kansai@jsqc.org

各賞表彰

第51回通常総会において、第50年度研究奨励賞、品質技術賞、各1件、品質管理推進功労賞3氏、Activity Acknowledgment賞2氏の授賞および表彰が行われました。

【第50年度 研究奨励賞】

小茂田 岳広 氏（東京工業大学 工学院 経営工学系（現）トヨタ自動車(株)）

『高次元の工程管理における管理特性間の相関を考慮したサンプリング戦略』

著者：小茂田 岳広「品質」Vol. 51, No. 2 pp. 53-61（2021）

【第50年度 品質技術賞】

浅羽 登志也 氏（(株)IJイノベーションインスティテュート）

『DXがもたらす産業構造の変化と、周回遅れの日本が取り組むべき課題』

著者：浅羽 登志也「品質」Vol. 50, No. 4 pp. 6-11（2020）

【2021年度 品質管理推進功労賞】

坂根 誠 氏 元(株)GSユアサ

澤村 祐一 氏 三菱重工環境・化学エンジニアリング(株)

横田 博史 氏 愛知製鋼(株)

【第50年度 Activity Acknowledgment賞】

小茂田 岳広 氏（トヨタ自動車(株)）

原 辰徳 氏（東京大学 総括プロジェクト機構）

新規研究会メンバー募集

社会基盤型運輸システム品証研究会

社会基盤型運輸システム品証研究会の研究会メンバーを下記の通り、募集いたします。

主 査：岡部 康平（労働安全衛生総合研究所 主任研究員）

開催日：毎月1回開催予定

場 所：Web会議室（Zoom）または日科技連 東高円寺ビル

申込方法：本部事務局宛に会員番号・氏名・所属・連絡先を明記の上、

FAXまたは E-Mail(jimukyoku@jsqc.org)にてお申し込みください。

募集定員：10名

事務局からのお知らせ

JSQC規格頒布のお知らせ

この度、下記の成果がまとめられましたので、ご希望の会員の方に実費で頒布いたします。

JSQC規格 Std 21-001「プロセス保証の指針」（英訳版）

1. 申込方法：下記のURLより資料名、部数、会員番号、氏名、所属、住所、送付方法、電話番号を入力の上お申込みください。

詳細・申込先：<https://jsqc.org/jsqcstd/>

2. 資料代：1冊（A4判48頁:PDF版）会員20ドル、非会員25ドル

振込み先：一般社団法人 日本品質管理学会

三菱UFJ銀行 渋谷支店 普通預金 4313820

資料は入金を確認の上、送付いたします。